

2012粗大ゴミのたわ言 埼玉西支部千木良宣行

会報136号の小高さんの「第十一回 彩り展」報告に、昨年川越市展の審査の話があり、それについてちよつと言いつつ、いい絵を見、旅をし、描き、個展をや

り、公募展応募と、本気になってやりました。売れたり、賞もいろいろで大きな賞金を稼いだりしましたが、金は全て絵と旅に遣いました。落選は数知らず、その都度おちこんでは、「今描かなければ」と奮い立ちます。先生方のご講評は、目爛々で聞くなど、二十数年ひたすら、「いい絵を描きたい」とやってきました。それが昨年度、突然市の生涯学習課から審査員の依頼です。断ろうか迷いながら結局引きうけたのは、市展の審査にとかくダーティな噂があり、市民でもあるし、「改革のチャンスかも」と思い返したからです。

審査当日の朝、市美術館近くの「通りやんせの天神様」に、公正な審査ができるようお詣りしましたが、いざとなったら血の雨を降らす覚悟でした。審査前の会議で、題名と氏名・年齢を読み上げるかどうか問われて、「絵は作品が全て、名前や年齢は要りません」と言ったら、そうするとのこと、「あれれ」と思いました。

審査員は委員長の国画会気鋭のM先生も含めて7名で、しかも「公開審査」です。終始一貫「全審査員の一票は平等」で、県知事賞を決めるときも、再三の投票でいい作品に決まりました。審査はクリーンでオープンで、お歴々の圧力もなく、血の雨など降らせようがありません。

会場で県知事賞の作品を見ていたら、「お陰様でウチの息子が県知事賞で、ありがとうございました」と声があり、驚いて振り返ったら最近西支部に入会したSさんです。「えっ、いやや、選んだのは私だけじゃない。息子さんだと全然知りませんでした」とうろたえて言ったら、「あらま

そう、あつ、はつ、はつ」と、朗らかに笑いました。

最終日は審査員全員が美術館に集まり、作品の講評です。「公開審査」といい、「審査員全員による講評」といい、「平等で談合のない審査」といい、今やわが町川越の美協はすすんでおり、どうしてなかなか魅力的です。

絵は金や名声ではなく、好きで描くもの。寺内タケシは言います、「ギターは弾かなきゃ、音は出ない」。本気で描いていけば、見る人は必ずいます。その証拠に、出展依頼が増えてきました。

本年前半は新年早々、オーナーが美術品の目利きのアルテカーサ川越・美術ギャラリー画廊での、「新春入札小品展」を皮切りに、二月には「地元作家を応援しよう展」。三月から四月にかけて個展、五月には川越市美術館での支部展と恒例の個展、六月は秩父美術館主催の「新進画家展」(無名の作家支援に美術館が始めた)と続きます。「応援しよう展」もさることながら、見かねてか、さまざまの方がアトリエのボロ看板を直す、野菜や米、画材や古タオルの着棄、エガキを買うなど、温かく支援してくれました。後期高齢者で、貧乏で、孤独で、よそ者で、変わり者で、ボロ家で、死ぬまで画学生の何の価値も無い粗大ゴミは、このまま絵のパラモン(求道者)で無名で果てようと、田舎町の小天地に先生でちんまり納まるよりは、まだマシだと思っております。

そんな思いを託した津軽三味線創始期の、演奏芸への熱い物語。拙著「岩木川」130枚を、現在ブログ【アトリエちぎ便り】に連載中です、覗いてみて下さい。



ピカソを裏切った女・フランソワーズ 大石亨

女には手なれたはずのピカソの生涯で、唯一ピカソを裏切った女性がいる。その名はフランソワーズ・ジロー。

フランソワーズはピカソにとって六番目に登場した女性。一九四三年、暗い占領下のパリでドラ・マールとの仲が冷え、日々悶々としていたピカソは美術学生フランソワーズと出会い、たちどころに元気を取り戻した。

彼女はドラ・マールの娘といってもおかしくないほど若く美しくピカソを引きつけるには完璧だった。ピカソの作品を率直かつ心から尊敬しながら、また抜け目なくピカソの名声を利用することも忘れない女だった。

その後フランソワーズは息子クロードと娘パロマ(鳩の意味)を生んだことを理由にピカソをパリから遠ざけ、ピカソ一家は一年の大半を南フランスで過ごすようになった。

ピカソは息子クロード、娘パロマともども久方ぶりの家庭生活を楽しみながら絵画と陶器の制作に没頭した。かたわらフランソワーズも絵画に熱中、個展をやり講評を得た。そして彼女はピカソの画商を使って自分の作品を金に換えていた。ピカソはこれを知り、彼女が自分を裏切ったと激昂した。利巧な彼女は自分とピカソとの関係がどうやら終わりに近づいたと感じ、クロードとパロマを連れて家を出た。その後、何度かお互いヨリを戻したものの彼女の再婚で完全に離別した。

女から裏切られるということは数多くの女性を経験したピカソにとっては耐え難い事だった。ピカソはフランソワーズに仕返しをしようとして決心した。正妻オルガが癌で死んで法的に自由な身となったピカソは新しく若い未亡人ジャクリーヌ・ロックを見出して、一九六一年、彼女と結婚した。

この頃から、ピカソの絵に再び猫が登場することになる。フランソワーズが猫嫌いだっただけで猫を描かずにいたのだった……

支部展予告

- 神奈川支部展 4月3日～8日 川崎市 アートガーデン川崎 連絡先:鈴木忠義 045-832-0504
- 多摩支部展(第21回) 4月10日～15日 東京 立川市女性総合センター アイム 連絡先:田沢博 090-2314-4715
- 千葉支部展 4月17日～22日 我孫子市福祉ふれあいプラザ 連絡先:小宮山修 04-7191-8034
- 埼玉東支部展(第31回)4月25日～29日 春日部市商工振興センター4Fギャラリー 連絡先:北條三郎 048-734-2073
- 埼玉西支部展(第35回)5月8日～13日 川越市立美術館 1F 市民ギャラリー 連絡先:千木良宣行 080-1034-4830
- 東京東支部展(第14回)6月4日～10日 東京 葛飾シンフォニーヒルズ 2Fギャラリー 連絡先:土屋政夫 03-3628-2518

編集部より

原稿をお寄せ下さった方々に厚くお礼申しあげます。多くの方々の自由投稿お待ちしております。

次回発行予定:平成24年6月中旬

送り先:下記いずれにて可

本部:小高峯夫 〒350-0824 埼玉県川越市石原町 2-53-6
Mail: m-odaka@pop.kcv-net.ne.jp

京都:四方公子 〒613-0032 京都府久世郡久御山町 栄 2-1-77
Mail: kimiko-shikata@kkd.biglobe.ne.jp

広島:藤原清二 〒720-1131 広島県福山市駅前町 万能倉 98-6
Mail: i-boom@ms13.megaegg.ne.jp